

都城市・三股町 エンディングノート

『 想いを紡ぎ心を繋ぐノート 』

追跡アンケート調査結果



各医療機関の皆様・
患者様、調査のご協
力ありがとうございました。



『 想いを紡ぎ心を繋ぐノート 』 追跡アンケート調査について

調査目的：『人生会議』実施および『エンディングノート』活用の実態把握

調査対象：かかりつけ医療機関で『エンディングノート』を希望した患者

調査期間：令和3年3月3日～4月3日

収集方法：令和2年6月都城市北諸県郡全医療機関に、エンディングノートを各10冊配布した。

患者さま・家族よりエンディングノートの希望があった場合、『市民のしおり』と一緒に説明し渡していただくよう依頼した。

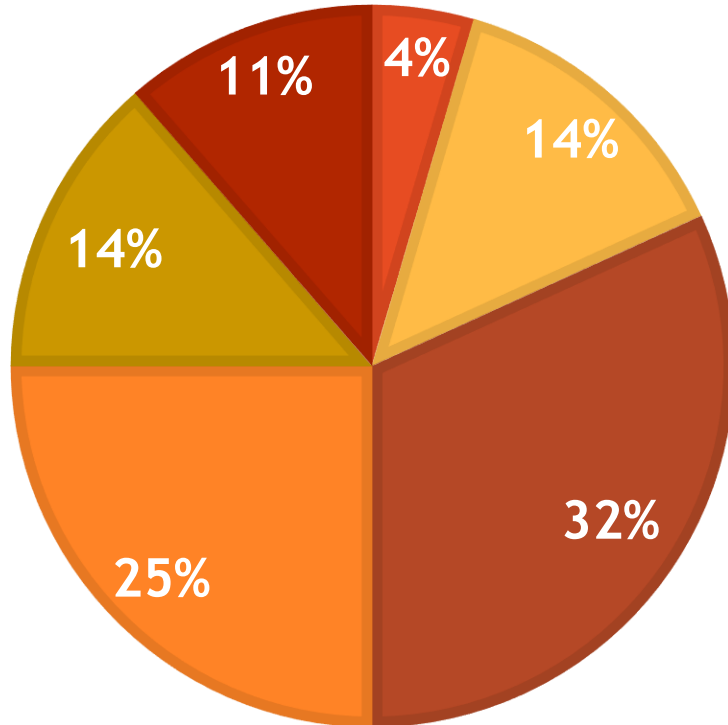
8ヶ月後、調査期間中に外来受診をした患者に、アンケート調査票を渡し回答を得た。

回収数：全医療機関うち41医療機関から回答を得た。

10医療機関のかかりつけ患者41名より、アンケート調査の回答を得た。

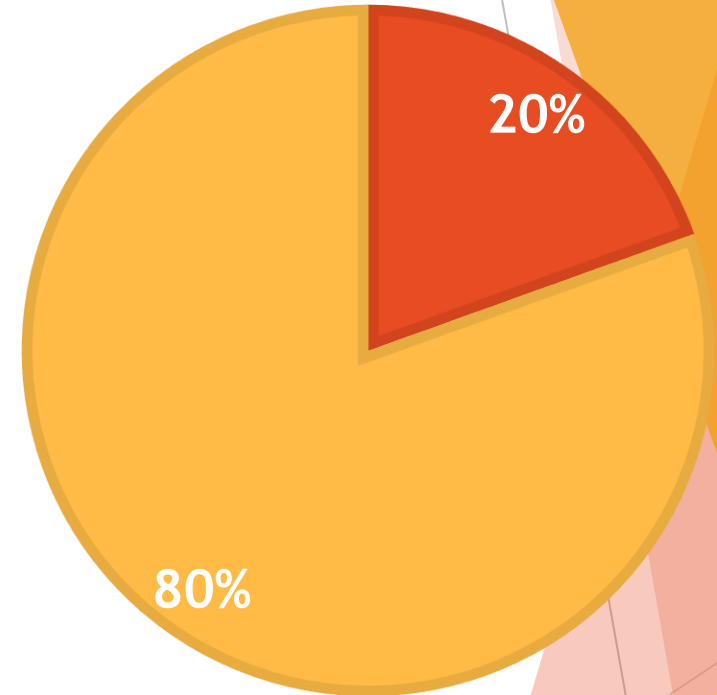
年 代

■ 50未満 ■ 50歳代 ■ 60歳代 ■ 70歳代 ■ 80歳代 ■ 90歳代



性 別

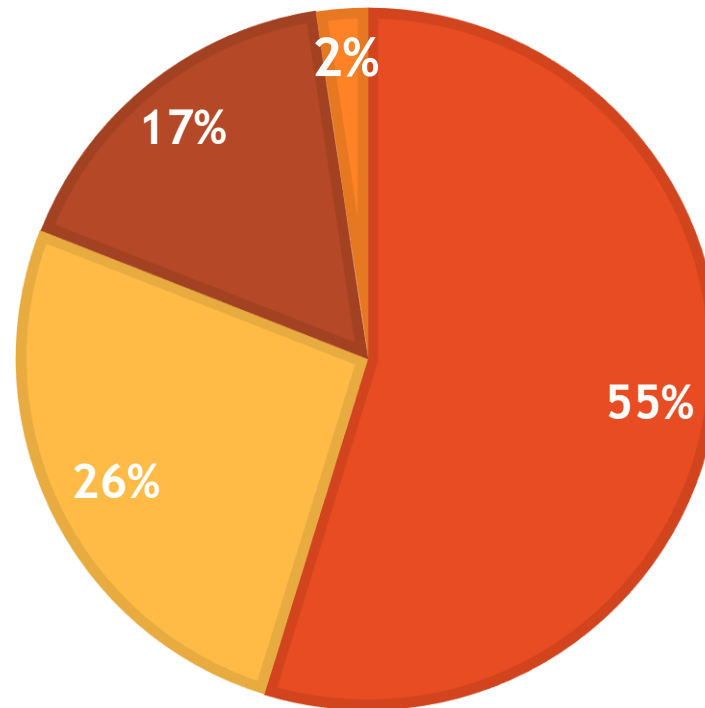
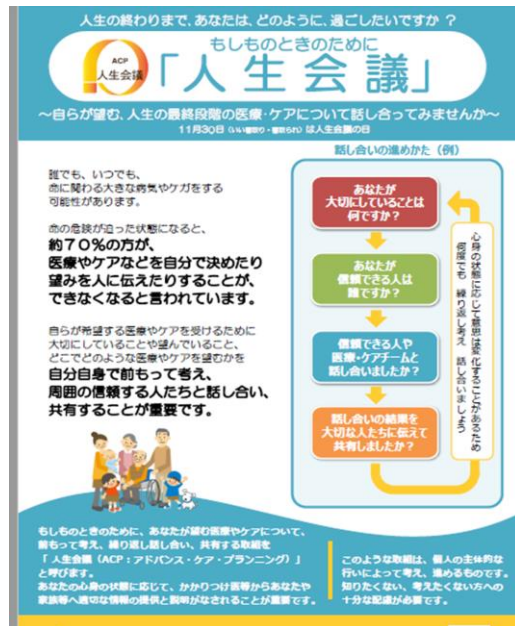
■ 男性 ■ 女性



かかりつけ医療機関に、エンディングノート希望した住民の年代は、60歳代が32%と最も多く、次に70歳代が25%の順で多いという結果だった。老年期にはいり、社会面・精神面・身体面の変化に伴い、ノートや人生会議の必要性を意識し始める時期であると考えられる。性別では、女性が80%を占め、男性と比較し女性の関心の高さがわかった。

問1 人生会議について

■ 話し合った ■ これから ■ どちらとも言えない ■ 話し合いたくない

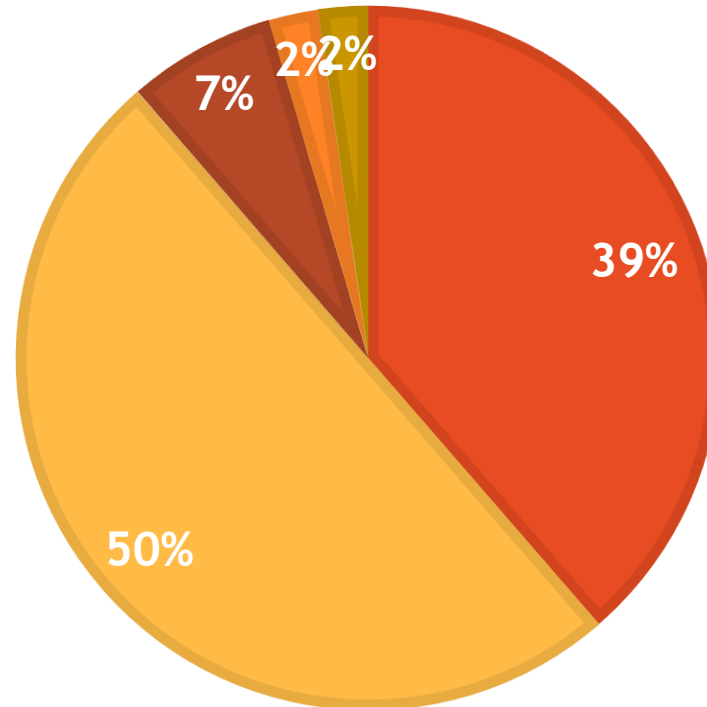


＜理由＞
自分の意志は決まっているので、話し合う必要がない。

エンディングノートをきっかけに『人生会議』を实际実施したのは55%で最も多く、次が「これから話し合いたい」の26%で、あわせると81%という回答だった。エンディングノートをきっかけに、『人生会議』の必要性を意識していることが分かった。

問2 エンディングノートの記入について

■書いてみた ■これから ■どちらとも言えない ■書きたくない ■無回答



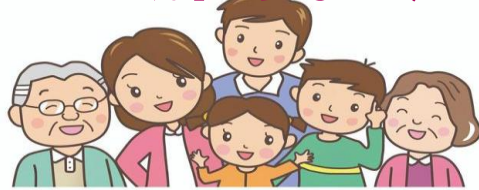
エンディングノートを「これから書いてみよう」という方は50%と最も多く、実際に「書いてみた」という回答は39%であった。あわせると89%が、エンディングノートを書くことで自らの意志を伝えるためにアクションを起こそうとしていることがわかった。

いざという時の為にこういう
メッセージがあるということが
よくわかりました。

60代になり色々な準備
をしておかないと、新た
に考えさせられました。

最期本人がどうしてほしい
か決めることができた。

地域住民の声



使ってみて、一応決めたけれ
ど、いざというときには迷う
かもしれない。終の棲家に行
くと決めるタイミングについ
て話し合いができました。

元気なうちに母と話
し合うようにしたい。

もしものの時の為に
書いておきたい。

書きやすかった。
見やすかった。

もう少し簡単だとい
いの。

友達もこのノートを書いて、
終活をしたいと言っていた。
良い終活になりそうです。

使ってみて、気付か
なかったことを見直
しできました。

娘に年末年始に話をしたが、娘自身
聞き入れたくない感じでした。そん
な話をしないでといった感じでした。

認知症が進み62歳で何もできなくなり、意思疎通が図れないようになってしまった。

色々なノートを見たが、当院で渡されたノートは書きやすい。

書き込みながら、簡単な頭の整理になりました。

二人暮らしの為、大切だと思った。

地域住民の声



何もわからないので助かります。家族と話し合うことが分かって助かります。

記入して伝えておこうと思います。

夫とは話した。
子供達には言えない。

改めて自分を見つめるきっかけになりました。なるべく早く主人とも話し合った方がよさそうな気がしました。

どこまで自分の意見が届くのかかわからないけれど、ノートに書いておくことで、自分の意見が残せるのはすごくいいことだと思います。これからいろいろ悩みながら、書き直しをして最終的に自分の意見が書いていけたらと思います。

子供たちに話そうとしたが、あまり関心を持っておらず聞く耳を持たない。

病院・診療所からの声



待合室に、見本として、1冊掲示しており、必要な時は、NSに声掛けするように標記しています。希望者には説明し、渡していますが「とても書きやすい」「家にあるのよりわかりやすい」などの声を頂いています。最期まで自分らしく、とても大切なことだと思います。ノート自体も、本当に記入しやすく、家族で共有しやすいものになっています。今後も希望者には、活用してもらえよう丁寧に説明していこうと思います。

関心を持たれる方が、思ったより少ないのは意外な気がしました。これから役に立つと思うので、少数でもにノートの発行をして頂けたら良いと思います。

大きな字で見やすく明るい色合いが優しくてよかったです。

コロナの関係で、続けていくことは困難なように思います。

まだまだエンディングノートの普及に対しては、興味関心が薄いようです。元気で健康な方は、特に医師から患者・家族に対してIC時等積極的なアプローチがさらに重要と考えます。当院でも、適時普及啓発に努めてまいります。

とても良いと思います。必要なことを書き込むだけでいいので便利です。TVなどでお知らせしたり公民館店・図書館などにおいて下さるといいのではないかと思います。医療機関では、自分の死期が近づいているのかとか、患者さんに変に勘繰られそうでお勧めできませんでした。

当院で配布に関して基準が定まらず、検討中である。1冊参考に渡しました。「こういうものがあるといい」実際の活用はなかったようですが、反応はありました。

調査対象の範囲を広げると、需要も増え回収なども上がるのではないかと感じました。



急性期というところから、エンディングノートを案内する場面がなく配布実績はゼロでした。エンディングという言葉の取り方が人それぞれである為案内のタイミングも非常に難しい。取り扱う施設の種類・例えば療養や緩和ケア施設などに重点を置くと普及に繋がりがやすいのではと思う。

全部配布されました。

病院・診療所からの声